

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 3 4 原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 #34 原作シナリオ

#1 レストラン(昼)

上の空の杏子が女友達数人と女子会を開いている。

女友達「ねえ杏子、聞いてるの？」

杏子「(我に返って)ごめん。ぼーっとしてた。何の話？」

女友達「来年、みんなで旅行でも行こうって」

杏子「来年か……」

杏子のOFF「あたし、行けるかな」

#2 杏子の家・リビング(夜)

たどたどしいピアノの音。

杏子、拙い指の動きでキーボード・ピアノの練習をしている。

杏子「(不意に手を止めて)この年でピアノは時間切れか……」

その時、杏子のスマホが振動した。

#3 同・月が見える縁側(またはベランダ)

杏子がやってくると、菜摘が虚空に向かって話している。

杏子「(怪訝に)おじちゃん、張り込みで遅くなるって。おばちゃんと一緒に寝る？」

菜摘「トオルちゃんがいるから大丈夫」

杏子「トオルちゃんってあのトオルちゃん？ ここにいるの？」

菜摘「うん！」

杏子「(虚空に向かって)一度あたしにも会いにきてよ」

#4 深夜の寝室で菜摘が眠っている

#5 ダイニング

杏子がウイスキーのストレートをショットグラスで飲んでいる。

杏子「トオルちゃん、一緒に飲まない？」

静寂。

杏子「そっちの世界はどんなところ？ あたしもそろそろ行くから教えてよ」

静寂。

杏子「つれない人ねえ……(ウイスキーを呷る)」

#6 夜の片町をママチャリに乗ってやってくる杏子(別の日)

#7 「居酒屋まわりみち」店内(夜)

暖簾をくぐって来店する杏子。カウンター内にはアヤカ、末吉、客にハルなどがいる。
ハル「オネエ所長のプロポーズの返事、どうしたんすか」
杏子「断ったわよ。あたしに必要なのは結婚式じゃなく、お葬式だもの(煙草に火を点けようとする)」

その煙草を奪い取ったのは――アヤカ。その怖い表情。
杏子「(末吉に)この店、禁煙だっけ？」
末吉「(取りなすように)煙草は体に悪いよ」
杏子「あたしは長生きしないから平気(と新しい煙草を取り出して、火を点ける)」
そんな杏子に何も言えないアヤカ、ハル、末吉。

× ×

カウンターで酔い潰れている杏子。
杏子「(譫言のように)なんであたしなんだよ！　なんで、なんで……」
唐突に立ち上がる杏子。
杏子「帰る。お勘定して」
末吉「タクシー呼ぼうか」
杏子「チャリで帰るからいい」

8 桜が満開の広坂通り

蛇行しながらやってくる杏子の自転車。
杏子が車道を横断しようとする、車のヘッドライトが急接近してきた。
急ブレーキ音。
杏子「(目を見開いて)」

9 杏子が目覚めると、そこは月面。頭上に青い地球が見える

トオルが微笑んで立っている。
トオル「お望み通り、会いに来ましたよ、杏子さん」
杏子「あなたがトオルちゃんなの？　どこかで見た顔ね」
トオル「その節はどうも」
杏子「(周囲を見回して)ここはお月様？」
トオル「こっちの世界では、その人が見たいものが見えるんです。前に杏子さん、『月世界旅行したい』って言ってたでしょ」
杏子「子どものころ、月のうさぎを見てみたかったの。あたし、死んだのね。こんなイケメンがお迎えに来てくれるなら、もっと早く死ぬば良かったわ」
トオル「ちょっと付き合ってください(と杏子の手を取った)」

10 金沢城公園の上空

ライトアップされた夜桜の上を、手をつないで飛んでいる杏子とトオル。

杏子「(満面の笑みで)ウォ！」

やがて二人は、とあるマンションに近付いてきた。

1 1 オネエ所長のマンション・リビング

窓を通して――オネエ、菜摘、サオリの3人が折り紙を折っているのが見える。

菜摘「どうしておばちゃんに千羽鶴あげないの？」

オネエ所長「千羽鶴なんかプレゼントしたら、杏子は『病人扱いするな！』って怒るわ。あのおばちゃん、怒らせると怖いのよ」

サオリ「一発や二発はボコられるな」

オネエ所長「あたしは杏子の病気が治るように祈りを込めて折る。千羽でも万羽でも」

室内には千羽鶴の束がいくつも下げられている。

そんな光景を窓外の虚空に浮かんで見ている杏子とトオル。

杏子「……」

1 2 金沢城五十間長屋の屋根の上に座っている杏子とトオル

トオル「みんな杏子さんのために祈っているんですよ」

杏子「でも、もう手遅れ」

金沢城公園の上に浮かぶ満月。

杏子「(月を見上げて)トオルちゃん、あたしを天国に連れてって」

トオル「それはできません」

杏子「どうして」

トオル「杏子さんは死んじやないから」

杏子「！」

トオル「時間はまだ残っていますよ。何をするにも遅すぎることはありません」

1 3 広坂通り

杏子がハッと意識を取り戻すと、ハルの背中におんぶされていた。

その後ろには自転車を押すアヤカも続いていた。

杏子「あなたたち……」

ハル「心配で見に来たら杏子さん、道で酔い潰れてました」

アヤカ「杏子さん、生きて下さい。あたしたちのためにも」

1 4 杏子の家・リビング(翌日)

杏子、真剣な眼差しでピアノの練習をしている。

杏子のOFF「負けないわよ。こうなりゃ死神とタイマンだ。元ヤンなめんなよ！」

拙い指の動きでピアノを弾く杏子。